

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホーム ると (1号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&amp;SCD=320&amp;PCD=">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&amp;SCD=320&amp;PCD=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成24年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最期は自分が住み慣れた場所で。そして最期まで自分の好きな事をしたい」この想いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。  
 その場限りのお付き合いではなく、最期を迎える時に「ここ(ると)でよかった」と感じて下さるよう、心のこもったケアを今後も実践していきたいと思えます。  
 「ゆったり 楽しく 仲良く」の理念のもと、入居者の方とスタッフが同じ時間の中で支えあいながら穏やかに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

\* ホーム長は、入居の際「ターミナルケアの実践について説明し、家族の同意を得る」という、ターミナルケアへの積極的な姿勢を明確に示している。この方針は、職員にも浸透し、共有されており、最後まで一緒に過ごすことが、自然な介護の課程として捉え、心のこもったケアが実践されている。  
 \* 快適な住環境・家庭的で美味しい食事・気分転換の外出支援など、理念の「ゆったり 楽しく 仲良く」が実現されている。  
 \* キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座や、介護教室を開催し、地域貢献も目指しており、地域の社会資源としての存在がますます期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者家族からの要望を受け「ゆったり 楽しく 仲良く」との分り易い言葉の理念を掲げており、スタッフ全員が共有できるようにしている。	思いをそのまま言葉で示した「ゆったり 楽しく 仲良く」は、分り易く、「話を聴く時は、立ち話ではなく、隣に座ってゆっくり耳を傾ける」「急ぎとなる状況でも、走らない」「食事介助もその人のペースにあわせてゆっくりと」等、職員行動の軸として共有されていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域が主催する祭りに参加するようにしているが、インフルエンザ等の流行で参加できなかった。準備などには職員が協力して参加している。	地域との交流、地域への貢献を目指し、職員がキャラバンメイトとして認知症養成講座・介護教室の開催を実施している。地域への祭りには積極的に参加し、利用者や地域の人々との交流支援に努めている。	まつり等への参加の際は、前準備から協力し、利用者の参加意思を主催者側に連絡することを行ない、駐車場や車椅子使用者のための見学スペース等の確保依頼も可能と思われる。ふるさと祭りは、住民である利用者にとっての楽しみであり、主催者側の支援を得るための工夫も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を開催し、認知症ケアに関する啓発活動を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で委員から出た意見をサービスに反映してサービス向上に努めている。	家族代表・公民館長・地域包括支援センター・民生委員等の参加を得て開催し、入居者の状況、ホームの活動状況等が資料と共に報告されている。ホームの課題を話し合うまでには至っていないように伺えた。	利用者がホーム外でも豊かな生活ができるように、地域関係者の多様な支援が得られるよう、会議等で依頼するのも良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換・相談など、密な連携に努めている。	介護教室を開催する際は、市町村の担当者から内容や進め方など具体的なアドバイスや支援も得られており、必要に応じた協力関係が出来ているように伺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成し身体拘束をしないケアに取り組んだいる。また、法人全体の研修として、身体拘束を含む「高齢者の権利擁護について」講師を呼び研修を開催している。	「入居者の様子から気づく虐待のサイン」「スタッフの態度から見られる虐待のサイン」等、具体的に示したホーム独自の「虐待・拘束防止マニュアル」を作成し、研修を行い、スタッフの意識を高めて、拘束のないケアの実践に努めていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する外部研修に職員を派遣したり、上記研修に「高齢者虐待について」が含まれており、学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記研修の中に含まれており、学ぶ機会は設けている。また、個々の必要性に応じて活用できるよう勧めているケースもあるが、利用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がないか尋ねて、不安解消に努めている。また、契約内容は十分に理解していただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の家族会や面会時に、家族の意見を聞き、全職員で共有している。	毎月1回、家族会を開催し、利用者と家族、職員と一緒に食事をしながら、自然な雰囲気です話をし、要望を聞く機会を作っている。無記名で行なわれた家族アンケートへの回答欄に要望記載はなく、家族会等での会話を通して、コミュニケーションが十分とられているように伺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティング時に意見や提案を出し合い、運営に反映されるよう努めている。	毎月のミーティングでは、積極的に意見が出せない職員の声を聞くために、指名して提案を促すなど、意見が言い易い雰囲気作りへの工夫が見られた。評価員が行なった職員聞き取りからも、同僚や上司とのコミュニケーションがとりやすい環境であることが感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や目標管理シート等を用いて、勤務状況の把握と職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加し、個々のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草グループホーム連絡会天草ブロックに参加し、勉強会や意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面談し、できるだけ顔見知りの関係になれるよう不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には、不安なことや要望などを傾聴し不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いやニーズをふまえ、他サービス利用も含め、適切なサービスが提供されるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという意識を持ち、互いに支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアに関する困りごと等は、家族にも相談し、協力を得るなど、解決に向けて意識の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される以前の馴染みの関係が継続されるよう支援に努めている。	月1回、家族を招待して夕食会を行ない、家族との関係が途切れないよう支援に努めている。また、遠くにいる親族には、職員が支援して、年賀状や暑中見舞い等、季節の挨拶を送るなど、継続している。その結果、面会に繋がったケースもあり、関係継続への地道な支援の成果となっていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに利用者同士の交流ができるように職員が間に入るなど孤立を防ぐよう努めている。また、利用者同士の関係を配慮し食事時の席の席替えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方から相談があった場合には適切に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を把握し、思いが実現されるよう努めている。困難な場合も利用者にとって不利益にならないよう利用者本位のケアを心掛けている。	入居時に得た人生史の情報等を参考に、利用者が好む話題、避けたほうが良い話題などを把握して、楽しく安心して過ごせるようなケアに努めている。言葉で要望を伝えられない利用者の様子を細やかに観察して、思いに添う努力が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からや入居前の施設等からの情報収集を行い、全職員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態観察、残存能力の把握、微妙な表情の違いやサインを見逃さないよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に、本人・家族の意向や関係者からの意見などを情報収集しアセスメント・モニタリングに反映し、介護計画を作成している。	利用開始時は、利用者と家族の希望を聞き取り、入所前までの情報を参考に、アセスメントを実施して介護計画を作成している。6か月ごとの見直し時は、担当職員がアセスメントを行ない、計画作成担当者が調整して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話や内容や行動障害についての症状などを細かく記録し、介護計画作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応できるよう、常に柔軟なサービスの提供を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室からボランティアを受け入れている。そのほかにボランティア・地域資源との協働は特にないが、個々のニーズに沿って買い物に出かけたり、美容室に出かけるなどの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重してかかりつけ医を決め、適切な医療を受けられるよう受診の援助をしている。また、同じ敷地内にある内科医院で定期検査と診察を行っている。	希望に添って、かかりつけ医の継続支援を行い、受診は家族同行を基本としている。入所時に隣接する母体医療法人の医師による健康診断が行われ、その後、定期的な検査、必要に応じた治療が継続されており、週に1回の回診が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、情報を共有し協力体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方の入院時には頻回な面会を行っている。また、入院先の医師や看護師とも情報交換を密に行い医療連携に努めている。尚、退院の時期についても都度話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて家族と十分に話し合い、より良い最期に向けて全職員が取り組んでいる。	入居時に、「住み慣れた場所で最後まで過ごせるようにターミナルケアを実践していることを家族に説明し、同意を得る」という積極的な方針を明確に示している。ターミナルケアに取り組むホーム長の熱い思いは、スタッフにも浸透して共有されており、母体法人の支援と併せて利用者と家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会等に参加し全職員が対応できるよう心掛けているが、実践的な経験者が少なく訓練を実施する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回及び事業所内において日勤帯と夜勤帯のそれぞれを想定した火災訓練を毎月行っている。また、地域の消防団と合同で消防訓練を実施している。尚、スプリンクラーの設置も終了している。	年に2回、法人全体で実施される防災訓練時は、職員が高齢者を体験できる装具をつけた疑似モデルで参加し、高齢者の俊敏な行動が難しいことを再確認している。また、ホーム独自の火災避難訓練は、日勤帯と夜勤帯時の火災を想定して、それぞれ毎月実施し、災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応等は、常に職員間で確認し合い利用者の尊厳が損なわれないよう、慎重に行っている。	方言だけで話した方がコミュニケーションがとりやすい人、丁寧な言葉使いしか受け付けない人と、多様な利用者がおり、現役時代の職業や、人生史などを参考に、人格を尊重した対応への努力が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に何かを選択する場面を設けるよう努めている。また、おやつ時には飲み物のメニューを用いて自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になり、利用者のペースやその人らしい暮らしを阻害しないよう、柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室など、本人の行きつけの店に行っていたり、外出援助を行い、また、化粧品なども使い慣れているお気に入りの物を購入するなど、その人らしい身だしなみができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を生かし、野菜の下ごしらえなども利用者と共に行ない食事を楽しめるよう支援している。	全職員で工夫しながら献立を作り、食材を購入して調理を行なっている。旬の食材、変化のあるメニュー、栄養バランスへの配慮、1汁3菜等を基本に、家庭的で美味しい食事が提供されている。入居前の施設でソフト食だった利用者が、ホームでは、普通食が食べられるようになったケースもある。担当職員と外食したり、ドライブの帰りにうどん屋に入ったり、季節が良い時にはお弁当を持ってピクニックに出かけたり、臨機応変で、柔軟な、楽しみの支援が実施されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し摂取量の把握を行っている。摂取量が少ない場合には、本人の嗜好に合う食べ物を別メニューで用意したり、栄養補助食品で不足分を補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア及び義歯洗浄剤での消毒を毎日行っている。一人で歯磨きが困難な方への口腔ケアは1日3回行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者の排泄サインを見逃さないよう努め、オムツ排除に取り組んでいる。	一人ひとりの排泄チェック表を作成し、パターンを把握して誘導に努め、快適な排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の野菜(食物繊維)を使った料理を食べていただいたり、朝食後にはヨーグルトを飲んでいただくなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間帯の入浴は行っていないが、入浴の時間というのは特に決めておらず、利用者の希望時に合わせるよう努めている。	冬場は入浴前に、浴室に取り付けられた暖房で十分に暖め、湯も毎回替えて、快適な入浴支援に取り組んでいる。しかし、若いころから入浴が好きではなかったという人が多く、職員は、毎回、声掛けに工夫したり、家族の支援を得ながら入浴支援に努めていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、昼寝など休息の時間を設けたり、夜間でも不眠時には一緒にお茶を飲んでしばらく過ごしたり、薬に頼らず入眠できるような対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容については全職員が把握し異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・習慣が継続できるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出希望にも応えられるような対応をしている。また、帰宅希望があれば家族への理解と協力を求めている。	帰宅願望の強い人や、心的状態等によって、個別に外出し、気分転換し、ストレス発散の支援をしている。また、桜・菜の花・水仙・椿見学など、お天気が良い時は、弁当を作って気軽にドライブし、季節を楽しみ、五感を刺激する支援が行われている。評価当日の午後、利用者達は、お天気に誘われてドライブの出掛けていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの管理能力に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近くの家族や遠方に居る親族・知人へも年賀状や暑中見舞いを手書きで作成して送るなどの援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の造りが認知症介護に適した造りになっています。館内には日頃より季節の花を飾るようにし、またその時々行事に合わせた飾りつけを行い季節感を出すようにしている。	1号館・2号館のリビングの仕切は、開閉可能であり、行事や食事会の際は、開放され、広々とした一つのリビングとなる。冬場は、エアコンに加えてストーブも焚き、温かくて居心地の良い、清潔感のある環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下など皆が集まる空間には、それぞれの場所にソファを設置している。状況に合わせて工夫しながら居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、家族の方へ馴染みの家具や品物の持ち込みをお願いしている。本人にとって居心地の良い部屋づくりに努めている。	仏壇や整理筆筒、お花が飾られた部屋、テレビが後ろ向きに置かれた部屋、壁に人形が飾られた明るく可愛い部屋など、一人ひとりの心地よさを大切に支援している。家族の支援が得にくい利用者の居室は担当職員が模様替えや居室作りを支援していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ホール、トイレ等に手すりを設置し自立した移乗・移動ができるような環境である。また、ホールには大きなカレンダーを掲示している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホーム ると (2号館)		
所在地	熊本県天草町下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成24年2月22日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最期を迎える時まで自分の好きな事をして過ごしたい。最期は自分の住みなれた場所で迎いたい」この思いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。その場限りのお付き合いではなく、最期を迎える時に「ここ(ると)で良かった」と感じて下さるよう、心のこもったケアを今後も実践していきたいと思ひます。「ゆったり 楽しく 仲良く」の理念のもと、入居者の方とスタッフが同じ時間の中で支えあいながら穏やかに過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370700447&SCD=320&PCD=>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成24年3月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり 楽しく 仲良く」との分かり易い言葉で示し、スタッフ全員が共有し実践につなげるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元で行われる祭りや行事には積極的に参加していますが、日常的な交流には発展していません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座の講師を務めるスタッフがおります。また介護教室の開催も定期的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度(偶数月の第③木曜日)開催しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換など、密な連携作りに務めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自の「身体拘束・虐待におけるマニュアル」を作成しています。また日々のケアについてもお互いのケア内容が拘束・虐待に当たらないかなど確認し合っています。(夜間の玄関の施錠のみ家族へも説明し承諾頂いています)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事件として扱われたケースについてはスタッフ全員で確認し、話し合いの場を設けるようにしています。また日頃より入居者の方の皮膚の変化等についても気付いたらすぐ報告するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している入居者の方がいらっしゃいますので、全スタッフへの理解を徹底していく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべての入居者のご家族の方に説明をし同意を頂いています。その際、疑問についてもその時点で何らかの回答をする事で納得と不安の解消に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見については日頃の面会時にスタッフが間に入る事で自然な形で聞けるようにしています。要望などがあった場合は全スタッフへ周知し話し合いの場を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者を含めたミーティングを行っています。その時には自由な意見が出せるよう管理者からの問いかけや意見の出し合いも行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己管理シートを活用し各スタッフの仕事に対する目標や頑張り度などを把握できるようになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修または施設内の勉強会には積極的に参加しています。また研修を受けるスタッフが偏らないようにしたり、研修内容に合わせたスタッフの選出を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三ヶ月に一度、天草地区のグループホームの代表者によるブロック会議に出席しており、意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話をよく聞き、その方の思いを把握するところからケアの実践にあたっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初または、その時々に関係の方の思いを聞くようにしており、その思いをケアの中にも取り入れるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に関係の方の思いを聞き、グループホームの中だけにこだわらず、他のサービス利用も含め柔軟な対応ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の場において、入居者の方に方法や意味をお尋ねする場面はよくあります。お互いに支えあいながら暮らしていけるような場面作り心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方へは面会時に最近の様子をお伝えするようにしています。また身体的・精神的に変化があった場合はその症状を包み隠さず伝える事で現在の入居者の方の様子を共有できるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の方のこれまでの生活を把握し大切にすることでケアに役立てることができると考えています。それらの事が継続できるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに穏やかに暮らせるよう、それぞれの入居者の関係が劣悪にならないよう、食事を摂る席の席替えなども都度行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方から相談があった場合は都度、対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを把握できるように会話を多く持つよう務めています。パーソンセンタードケアの実践に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「人生史」をご家族の方に記入いただいています。またそれ以前のサービス利用歴についても連携をとり把握できています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方一人ひとりのペースで一日をのんびりと過ごしていただいています。またそれぞれの方の残存能力に合わせたお手伝い等をお願いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にかンファレンスを行っています。出た意見は都度プランに生かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の経過記録はSOAP方式を使い、気付きや会話内容など密に記入するよう常に心掛けています。また特に周知徹底したい内容については蛍光ペンでラインを引き分り易いようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報やサービスなどを利用できるよう、視野を広げる努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループ内のサービス(売店・床屋など)だけに留まらず、地域のスーパーや理美容店へ外出していただく機会を多く持つようしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ敷地内にある開医院(内科)にて定期的な検査と治療を行っています。(週に一度は医師の回診あり) また他科受診の付き添いも行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合は気付いた時点で連絡をとり報告をしています。 迅速で適切な処置が受けられる連絡体制作りをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方の入院時には頻回な面会を行い不安を取り除くようになっています。 また入院先の医師や看護師とも情報交換を行い退院の時期についても都度話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを実践している事を家族に説明し同意をいただいています。 住み慣れた場所で最期を迎えられるようスタッフ全員で取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方や心肺蘇生の方法など、新人スタッフへの指導・訓練はできていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的なグループ全体の防災訓練および、毎月第一・第三金曜日には事業所独自の、日勤帯と夜間帯を想定した火災訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方に合わせた言葉またはスピードで話しかけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に何かを選択する場面を設けています。 (お茶の時間のメニューの選択) それ以外にも入居者の方自身に決定していただくような場面作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節の行事や日々の日課など、参加する・しないについては入居者の方の意思を尊重し無理強いしないようにしています。 拒否があってもしばらくすると雰囲気や途中から参加される場面も多く見られます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの衣類の好みを把握すると共に「今日の洋服(髪型)とってもステキですね」と日頃より声かけし、入居者の方自身が身だしなみに関心を持たれるような場面作りも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べこぼしが多かったり食事の摂り方が荒い方でも、自分なりの食べ方で食事を楽しめるよう支援しています。また食材の下ごしらえから後片付けまで、できる限り入居者の方と一緒にできるよう務めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をつける事で摂取量の把握を行っています。体調不良やその他の理由で摂取量が少ない場合には本人の好まれる物や栄養補助食品にて不足分を補うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に一回、ナイトケア時に確実な口腔ケアを行っています。その際、義歯は一晩預かるようにし洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作成しておりパターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より旬の野菜を取り入れた献立作りを心掛けています。また朝食後、希望者の方にはヨーグルトも摂っていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の声かけも行っていますが、基本的にはご本人の入浴したいときに入っただけです。スタッフとマンツーマンでゆっくり入浴を楽しまれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からお昼寝をされる方、自分のお気に入りの場所にて過ごされる方など自由に休まれています。移動に介助を要したり意思表示が難しい方へもスタッフからの声かけと誘導でのんびり過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の方の処方箋はファイルしています。またそれぞれの薬の作用等については病気と照らし合わせながら把握するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた楽しみごとの支援をしています。全員で何かを行うこともありますが日頃は個別対応を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	急な個別の外出にも対応できています。その際家族の対応が良いと判断した場合には依頼し協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者の方のレベルに合わせた対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状と暑中見舞いのハガキをご家族の方や本人の希望する方に出しています。 電話も本人の希望があればいつでも掛ける事ができ、また掛ってきた電話への対応も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が認知症介護に適した造りになっています。 管内には日頃より季節の花を飾るようにし、季節感を出すようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下など皆が集まる空間には、それぞれの場所にソファを設置しています。皆が集まるホールでは入居者間の人間関係に配慮しながら過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、ご家族への馴染みの家具や品物の持込をお願いしています。本人にとって居心地の良い部屋造りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者の方のADLや理解力のレベルに合わせた対応を行っています。		